



# 公益財団法人 School Aid Japan バン格拉デシュ通信 2013年10月号 No. 10



## NDMHS の3学期がスタート！

9月1日、NDMHSの3学期が始まりました。生徒たちは早く友達に会いたいと、駆け足で登校してきました。今月号からは、そんな元気いっぱい、NDMHSの生徒達の声をお届けしたいと思います。

### 生徒紹介

みなさん、ノモシカル！（ヒンドゥ教の一般的な挨拶）僕は NDMHS class6 セクションC のシマント・チャントロ・ダシです。（日本で言う小学校6年生）第一回目の生徒紹介が僕であることを嬉しく思います！よろしくお願いします。



シマント・チャントロ・ダシ

#### Q.NDMHSの学校生活はどうですか？

すごく楽しいです！

毎日、早く友達や先生に会いたくて、わくわくして登校します！また、放課後を使って勉強したり、みんなで運動できるのも魅力です。

来年は新校舎ができるので、今から楽しみです！！

#### Q.好きな教科は何ですか？

英語と数学です。

外国のテレビ番組を見るのが趣味の一つなので、英語はもともと好きなのですが、先生がコミュニケーション主体の英語の授業をしてくれるので、楽しく勉強することができます。

数学は、先生が僕たちに考える機会をたくさんくれるので、大好きです！

#### Q.将来の夢は何ですか？

エンジニアになることです！

たくさん働いていっぱいお金を稼いで、お父さんお母さんに楽をさせてあげたいです！

#### Q.今の目標は？

今度のテストで学年順位10位以内に入る事です！

今までの定期考査では、ランキング10に名前が載らず、悔しい思いをしました。

担任の先生にも今回は約束しているので、がんばります！

#### Q.目標に向け、今頑張っていることは？

先生と約束したこと、宿題や生活の仕方をしっかり守る事です。

やることを先に終わらせれば、友達と遊ぶ時間もできます。

うまくいかないときもあるけれど、少しずつ改善しています。

#### Q.最後に日本の読者のみなさんへ一言

バン格拉デシュへ来られる機会がありましたら、ぜひ NDMHS へ足をお運びください。

僕が NDMHS を紹介させていただきます！

## 第一回 夢達人ライブ！

夢を実現し今も尚その道活躍し続ける夢達人の、その人生に触れる企画「夢達人ライブ」

NDMHSでの記念すべき第一回を行いました。お招きしたのは、ダッカ大学経済学部教授のハミッド先生です。地方の農村の経済状況が良くない家庭で過ごされた幼少期から、奨学金を得ながらイギリスの大学で博士号を取得されるまでの苦難と、そのプロセスで学びとられたことを話して頂きました。

「経済状況が、夢を奪う理由にはならない。」

「社会で本当に必要とされている力は何か。」

バングラデシュで最高峰のダッカ大学で教鞭を振るわれるハミッド先生のお言葉にはパワーがこもっており、生徒たちも各々感じた重要事項を夢手帳に書き留めました。

ハミッド先生は、バングラデシュでNo.1のイングリッシュメディアム(全ての授業が英語で行われるカリキュラム)の教育を創る事を目標に、2014年から学校を立ち上げられます。

今も尚、夢を追い続けるハミッド先生に、最後は質疑応答の時間をとっていただきました。

「将来の目標や、人生の目的を見つけられたのは何歳のときですか。」

「現在までのハミッド先生の人生において一番の障害は何でしたか。」

等々、生徒たちは顔を赤らめ、声を震わせながらも、果敢に質問しました。

第二回以降の夢達人ライブも、バングラデシュの様々なジャンルで活躍される夢達人をお呼びする予定です。



第一回夢達人ライブにはダッカ大学経済学部教授のハミッド先生が来られました

## 深刻化するも手つかずの環境問題・・・

首都ダッカに限らず、バングラデシュには工場などで出る排水をそのまま流し、河川や池の水質汚染が深刻化しています。

スラムの人々は、洗濯やお風呂で近くの河川や池を使うことが多いと聞きます。しかし、右写真の地区のように、ゴミだけでなく、工場から出る排水などが池に垂れ流され、池が黒色のヘドロだらけになっている箇所が少なくありません。それでも、スラムの人たちはこの池の水を使うと聞きます。書くのも憚られますが、この池に生息している魚を獲ることもあるそうです。首都ダッカの河川にも同様の状態が見られる箇所が多数あり、下水処理の必要性問われています。



現に私達スタッフが住んでいる地域にも、ゴミ集積場のすぐ横で漁を行っている人たちがいます。「ゴミから出る化学物質だらけの水で育ったその魚をどうするのか・・・」と不安に思うことがあります。見かねた他国の水事業者の方々がバングラデシュに入り、民間レベルで下水システムを構築できるかどうか、検討中であるとの話も聞きます。

しかし、いくら他国籍の方々が水の大切さを謳われても、バングラデシュの方々自身に危機意識がなければ事は進みません。

水とは生命に欠かせないもの。「安全な水、清潔な水」の必要性を説くことは教育現場が担うべき一つの役割であると考えます。NDMHSでは、「水に関する教育」を来年スタートさせる予定です。